

エルムグループの季刊誌

# にれのき



31年目、新たなスタートを



**2015**  
**Winter**

<http://elm-ac.jp/>



# 100年エルムを目指し 物心両面のさらなる応援を

エルムグループ代表 矢沢 宏之

昨年は皆様方の多くのご支援とご協力により、エルムアカデミー30周年の記念行事を執り行うことができました。6月の記念レセプションには200名を超える方々、10月の記念発表会には250名を超える方々にご参加いただきました。

この場をお借りしてあらためて皆様方にお礼を申し上げます。(特に、エルムを応援する会、エルム父母の会には大変お世話になりました)

この二つの30周年行事を通して、私たちは三つの成果を確認することができました。

## 3つの成果

一つ目はつながりの広がりや深まりを確認できたことです。

特に、この10年間でエルムグループがさまざまな形で発展し、それぞれの

事業につながりのある方が大きく広がってきました。今回、卒業生をはじめとして2000名にのぼる多くの方々とつながりが改めて確認できました。そして、一連の行事を通して、今までエルムグループの一部や個人的なつながりしかなかった方々にも、エルムグループの総体を知ってもらうことができました。これにより、さらにはいっそう深くエルムを応援してもらいきっかけになりました。

また、エルムOB、エルム父母OBが中心となり「エルムを応援する会」が大きく動き、いっそうエルムグループと結びつくことができるようになりました。

二つ目は、エルムの30年の歴史と理念を明確に示すことができたことです。

レセプションの際の矢沢のエルムグ

ループ紹介や佐藤洋作さんのご挨拶、また記念発表会での矢沢の特別授業や平塚真樹さんのまとめなどを通して、エルムの30年の歴史と理念が、多くの皆様と共有できました。

エルムアカデミーが「目の前にいる子どもたちのために」塾を立ち上げた歴史を持ち、は日本国憲法や国連子どもの権利条約など「一人ひとりの人権を大切にすること」という理念をもっていること。そして、その子どもたちを長いスパンで教育するだけでなく、その先の自立も見通した中で、エルムグループの事業を広げ、「地域をつくる」という実践をしています。

このことにより、エルムグループの果たすべき役割・使命がはっきりとしてきました。

そして三つ目は「100年エルム」という合言葉のもとに、エルムグループをさらに発展させていくということとを共有することができたことです。

一連の行事を通して、エルムが取り組んできたことに、アカデミー在校生、卒業生そして父母、また地域の関係者はじめ多くの方々から「エルムは地域になくてはならないもの」と言ってもらえました。一人ひとりが大切にされる社会を創るにはまだまだ時間がかかります。「100年エルム」はた

だエルムが100年存在するというだけの意味でなく、社会が解決すべき課題に今後もエルムが取り組んでいくことの決意でもあります。

### 私たちの課題

これらの成果にもとづき、私たちのやるべき課題もはっきりとしてきました。

一番の課題は経営基盤の確立です。経営は「ヒト」「モノ」「カネ」と言われます。エルムにとつての弱点は「カネ」にあることは明瞭です。十分な財政基盤をつくる。これをどんなことがあってもやり抜く必要があります。

ここ数年のうちに、戸越公園駅前再開発に伴い、麵処はるにれの店舗、お

## エルムグループからのお願い

あいさつでも述べましたが、エルムグループの財政基盤を確立することが急務の課題です。

以下にご協力をいただきエルムグループを支えていただきますようお願い申し上げます。

- ① エルムアカデミー、教育サポートセンター NIRE に、子ども、若者、ご家族をご紹介ください。
- ② 麵処はるにれへのご来店をお待ちしております。また、通信販売もご活用ください。
- ③ web制作やPCサポートのご相談をESSにご用命ください。また、事務作業請負なども対応できます。
- ④ エルムサポート基金および教育サポートセンター NIRE では寄付金を常時受付けております。

よび別館（戸越公園スペース）の移転は急務の課題になっています。また、手狭で老朽化している荏原教室についても、移転を考えざるを得ません。何らかの形で新たな拠点をエルムグループとしてつくる必要があります。

そのためにも、エルムグループ各事業部の黒字化をすすめ、しっかりとした財政基盤を確立したいと思えます。

2015年はNPOの教育サポートセンターNIRE創立10周年にあたります。この10年間でNIREは大きく発展してきました。10周年企画も計画中です。

昨年末フィンランド・ヘルシンキ青年局の2名の女性が来日し、NIREをはじめエルムグループを視察しまし

た。フィンランドのユースワーク（わ

かも支援）を紹介するセミナーの中で、彼女らは、「ユースワークの仕事の目的は『良き友だちをつくること』と話していました。言葉を替えれば「人と人をつなぐ」こと。私たちが30年間やってきた仕事とまったく同じであり、長い歴史を持つ北欧若者支援の考え方に大変励まされました。

それは、まさしく記念発表会のテーマであった「つなぐがれ、ひろがれ、エルムの輪」にも通じるものです。この言葉を具体化し、新しく地域を創造するためにも、31年目のエルムグループをぜひとも物心両面で応援していただきますようお願いいたします。



フィンランド・ヘルシンキ青年局の方の高校部視察

エルムアカデミー創立 30 周年記念発表会

エルムアカデミー  
創立 30 周年企画  
レポート

# つながれ、 ひろがれ、 エルムの輪

「エルムアカデミー創立30周年記念発表会」つながれ、ひろがれ、エルムの輪」は、2014年10月19日、スクエア荏原大ホールにて開催しました。250人の参加者を迎え、大盛況の中で無事終了することができました。

「30周年記念発表会」は、第1部「夏の取り組み報告会」と第2部「創立30周年特別授業」の2部構成で行いました。

第1部「夏の取り組み報告会」では、「エルム&NIRE合同キャンプ」報告会と、「エルム中高合宿」報告会を行いました。

「エルム&NIRE合同キャンプ」報告会では、参加した小学生たちが楽しみにしていたビデオ上映を行いました。キャンプの映像が大スクリーンに映し出されると、子どもたちは楽しかった記憶がよみがえり、歓声をあげていました。中学生や高校生からは後輩たちの映像を見て、「すごく懐かしい」「小学生からエルムに入っていたかった」という声が聞かれました。保護者からは「子どもの話だけでは分からなかったことが映像を通してよく分かった」「子どもの生き生

きとした姿が見られてよかった」という声が聞かれました。

「エルム中高合宿」報告会では、合宿のビデオ上映を行いました。さらに、合宿のまとめとして中学部と高校部を代表して宇賀隆貴君と関口悟史君が発言してくれました。

第2部の「創立30周年特別授業」は、会場の参加者をクラスの生徒と見立て、エルムの誕生と30年の成長物語を一緒に確かめ合う授業です。

代表の矢沢宏之が進行をすすめ、30年の歴史の証言者として、沖宗尚さん、中田未夢さん、久保田光星さん、萩原直樹、中塚史行、多賀哲弥、武井隆祐さん、小関菜月、倉茂信吾さん、小池博さん、小池智子さんにも発言していただきました。授業の詳しい自身は、ブックレットとして発行する予定です。今回の「これのき」では、第1部から教員の北澤千穂と高校2年生関口悟史君の発言を、第2部からは特別授業の提唱者で、研究者の立場から長年エルムを応援してくださっている平塚眞樹さんのまとめの言葉をご紹介します。

## キャンプで印象に残ったこと

北澤 千穂（教員）

1つ目は、子どもたち同士をつながりが深まったことです。N・I・R・Eの子どもたちは、普段個別で勉強をしています。キャンプという非日常の空間で、ビデオでご覧いただいたようにたくさん楽しいプログラムと一緒にやっけていくなかで、子どもたち同士のつながりができ、深まっていきました。それを象徴しているものが、毎日の絵日記です。絵日記には「きのうすごかった&ステキだった人とその理由」を書く欄があります。子どもたちは仲間にたいして「加藤くんは元気で輝いていたからステキだった」「川遊びでタイヤを5個使って流れているのがすごかった」「川で一回転の飛び込みをしたのがすご

かった」「チームのみんながすごかった。がんばっていたから」など、たくさん言葉を書いてくれました。私はとてもうれしく、とても印象的でした。キャンプでできたつながりは、キャンプが終わってからも続いています。10月に行われた稲刈りでは、「山田くんは今日来ないの？」という声が聞かれたり、「アズスキーで山田くんと一緒に滑りたいな」と次のイベントを心待ちにしています。

2つ目は、6年生のことです。今年は「テント建て企画」「サバ飯作りの空き缶準備」「ドラム缶風呂片付けのお手伝い」など、6年生だけで活動することが多くあり、6年生たちの関係が強く、密になっていったと思います。この6年生たちのつながりの強さが、エルム小学部特カリグループの6年生との合同企画「花火づくり」や「キャンプファイヤーの点火」にも活かされました。そして、9月に行われた「6年生自転車企画」の成功へとつながっていたのだと

思います。

3つ目は、「来年も絶対に行きたい！」という感想がたくさんあったこと、そして、最後のキャンプだった6年生から「OBとしてまたキャンプに行きたい！」ボランティアとしてキャンプに関わりたい！」という声が上がったことです。私自身もエルムOBなので、とてもうれしく思います。今年にはたくさん参加してくれて、子どもたちと関わってくれました。OBの存在は大きくて、子どもたちの「ボクたちもああいう人になりたい」という憧れになったと思います。そして、「卒業してもこんなふうに関わりたい」ということを教えてくれたのだと思います。大人になった彼らと一緒にキャンプに行くことが今からとても楽しみです。



## 合宿は大きなバネ

関口 悟史（高2）

まず、合宿での高校部の様子を少し話します。スポーツ大会、平和劇、特別授業という柱は中学生と変わりません。違うのはその役割です。スポ大では、自分たちがやるのではなく準備や運営を担当して、中学生の応援に回ります。平和授業は高校生自身が先生になってすすめま

ることができました。最終日の企画もすべて高校生がやることになりました。高校生総出で盛り上げ、みんなの笑顔を見るのができました。

今年にはみんなが関心を持っていた「集団的自衛権」についてスマホを使って調べながら学習しました。普通「しまえ、しまえ」と言われるスマホを使っている授業なんて、エルム以外ではできないと思います。

今回の合宿で高校部は新しい一歩を踏み出したと思います。それも、みんなの協力があつて創りあげたものだからだと思います。そのなかで私自身も「振り切つて」やりきつたと思います。中学生から「高校生に助けられた」「高校部があこがれの存在だ」という声が出たと聞かされ、とてもうれしく、高校部の役割を果たしたという実感がわきました。一方で、私たち高校生も、スポ大で中学生が一生懸命やる姿を見て感動したり、平和劇の素晴らしさに圧倒されたり、大きな刺激をもらいました。

今年の私の合宿のテーマは「振り切る」。つまり全力でやり続けることでした。悔いを残さずこれまでの合宿経験のすべてを出すというのが目標でした。全体ではチームワークを大事にしました。教員抜きの高校生企画では何回も企画書をチェックして臨みました。想定外のことも起こってぶつつけ本番のようになりましたが、みんなが臨機応変に対応してくれて成功させ

合宿は大きなバネです。ここから本当の始まりで、エルムの仲間と協力する心、諦めない気持ちを合宿で終わりにしないでいこう。いいよね、エルムのみんな！

## 第1部 夏の取り組み報告会

第2部  
創立30周年  
特別授業  
まとめの言葉

# なぜ、エルムは30年間 続けられたのか？

私は途中でどこどころ突っ込めと言われていたのですが、全く突っ込む余地がないままに、授業に引きこまれてしまっていました。すでに私の持ち時間も少なくなってしまうので、矢沢さんの後に何をしゃべるのかという気もいたしますが、少しか一緒に教室にいたひとりとして、感想を述べさせていただきます。

ここにいらつしやる中学生や高校生の皆さんが、将来自分で会社を立ち上げたり、新しい事業をしたりするかもしれない。そのときに30年続けるというのは、大変なことだと思います。いろんな力を借りて、始めることはできるかもしれない。でも30年続けるというのはすごいことです。矢沢さんや相沢さんたちが始められた頃に、学校

教育がいろいろな意味で難しくなっていた時期でしたので、全国各地にエルムのような場所が少しずつ増えていきました。でも30年続いているところは決して多くありませんし、30年経ってこれだけの場を持つところが日本にいくつあるだろうかと思えます。私は一応大学で教員をしていて、研究者ということになります。なぜエルムは30年続けてこられたのかというのとは大きな問いです。今日この時間を一緒に過ごさせてください、少しかその問いの答えに近づけたらどうかと思えました。

## 答え① 冒険

3つのことを思いました。生徒の皆さんが話していたことを

聞きながら思ったことなのですが、ひとつは冒険ということですね。エルムの夏の合宿、そこには冒険があると思います。そういうことこの背後にあるのは、エルムをやってきた人たちが自身が大冒険を経たということではないでしょうか。矢沢さんは少し縮めてお話をしていたと思いますが、エルムを1月4日に立ち上げる前に、実は10月くらいから地下工作を始めています。それでビルの中の改装をこつそり進めながら1月になるわけですが、その始まりからして冒険を感じさせます。子どもたちがいなくなってしまうからこういう場はおしまいなんです、続く毎日が冒険です。その大人たちの冒険心あふれる日々の中にあつて、生徒たちも冒険できているのではないかと思

ました。

## 答え② 話し上手・聞き上手

もうひとつは、教えている矢沢さんたちもそうですが、話をしてくださった方たちが、中学生の皆さんも含めて、本当に話が上手で、聞くことが上手だということなんです。さつきから関心を持って見ていたのですが、後ろの方で話をすると、前の方にいる中学生の皆さんが後ろを向いてちゃんと聞いています。しゃべっている人の方を向いて話を聞くのは、他人に関心があるということなんです。

最近、大学生が就職のとき、コミュニケーション能力、しゃべりがうまくないといけないと言われます。私は話すことが上手になるためには、聞いてくれる人たちが必要だと考えます。良き聞き手がここにいるから、皆さんは話がとても上手にできるのです。話し合うということも、そういうことだと思います。話して、聞いてもらって、何か返してくれる。そういう関係があるから、ここにいます。これは話がとても上手なのだと思えます。表現とは人間が生きていく上でかけがえのないものです。自分を表現できるのはとても大事なことです。そうしたことは理屈で言われるのではなくて、こういった環境で育まれると感じました。



平塚 眞樹 さん  
法政大学社会学部教授

第2部  
創立30周年  
特別授業  
まとめの言葉

答え③  
長い時間をかけて人を見る

3つ目は、これだけ長い時間をかけて人を見ることができ、場所は無いということです。小学校でエルムに入った子が中学生、高校生になり、大学生になって、働きだしても、何かあったら戻ってくる事ができます。結婚して子どもが生まれて、子どもが小学生になったらまたエルムに入ってくるかもしれない。そのようなことがエルムでは30年かけて少しずつ創り出されています。学校はそれぞれ6年・3年・3年・4年しか人を見ません。学校の先生ももっと子どもの将来を見たいという考えはあるのですが、それはできません。学校は次の段階に送り出せたらひとまず役割は終わりになります。しかし、エルムの

つながりはずっと続いていて大人になっていきます。

セーフティーネット

先ほど若者サポートネットのお話がありました、私は若者支援に関心を持って仕事をしています。若者支援にいちばん大事なのは、いろいろな活動をしている場があるということです。職場やそれ以前に活動する

場があるか。ある人にどういった場が向いているかと考えるときに、たくさん引き出しを持っていないと紹介してあげられませんが。この人だったらここかな、あの人だったらあそこかな、と考える引き出しが必要です。本当に豊かだなと思うのは、エルムの1600人のOBたちとその父母たちがその引き出しを持ち、全部つながって合わせると何千人もの規模になる。も

ちろん地域の外に出た人もいます。と思いますが、住んでいる人もたくさんいる。おそらく誰でも人生において苦しくなったり、立ち止まったり、振り落とされることがあります。そのときに必要な場所をセーフティーネットと呼びます。そのセーフティーネットがエルムの30年の歴史によって形づくられてきたと感じました。それはおそらく

ものではなく、エルムと縁遠かった人がサポートネットにやってきて助けを求めたときにも提供できるものです。そういうものを創るうちはおそらく考えていなかったと思います。意図しないものも含めて、30年かけて創ってこられたということに敬服する思いです。今日はご一緒させていただきました。ありがとうございます。

(文責：坂口大)



# エルムアカデミーのまとめの取り組み

エルムアカデミーでは3学期、各学部で「まとめの取り組み」をおこないます。この取り組みの大きな柱は「まとめの授業」と各学部の「まとめの行事」です。これはエルムアカデミー独自のユニークな教育実践です。

## ● まとめ授業

「まとめの授業」というのは、エルムならではの取り組みです。今までの自分を振り返って、自分の成長やこれからの課題をあらためて考えてみるのが大きな目的です。

この授業の核は、「ほめあい」です。自分ひとりで考えていくには限界があります。そんなときにこそ「仲間に頼る」ことが大事です。そこで「ほめあい」の出番です。「ほめあい」をすることで、自分ひとりだけでは見えないものや気づかなかったことを知ることもできます。つまり、「ほめあい」は仲間の力を借りながら自分自身の成長を確認していくものです。また、仲間の良いところも知ることで、仲間とともに成長していける集団をつくっていく契機になります。



## ● まとめ行事

### 小学部・進級とまとめのつどい ホップ・ステップ・ジャンプ



小学部特カリグループの1年間のまとめの発表と、中学部へと進級する6年生の「進級式」があります。ほめあいを通して見えてきた仲間の良いところ、それを伝え合うまとめの発表は、笑いあり涙ありで、子ども集団の1年間の高まりを感じます。また6年生の発表も、エルムという場所や仲間に対する熱い思いなどが伝わってきて、とても温かい気持ちになります。最後の進級式では、進級する子どもたち一人ひとりを想って綴った進級証書や、教員スタッフによるメッセージも贈ります。

**2015年2月28日(土)17:30～**  
荏原第四区民集会所

### 中学部 卒業とまとめのつどい



1、2年生は、まとめの授業の成果発表として、来年度の決意を各クラスが発表します。しっかりとクラスの色が表れているような発表です。卒業する3年生は一人ひとりがスピーチをし、3年間通して学んだことや大事な思うこと、感謝の気持ちを、父母やエルムの仲間たちへ、伝えていきます。その子らしさと、確固たる意志、そして成長した姿を垣間見ることができ、会場全体が温かい雰囲気の中で包まれます。保護者一人ひとりからの思いのこもったメッセージも、卒業の門出に花を添えています。

**2015年3月15日(日)18:00～**  
品川区立中小企業センター

まとめの行事は在籍の保護者のみならず、生徒OBや保護者OB、そして地域の方など、どなたでもご参加いただけます。ぜひ、エルムの子どもたちの門出を応援しに来ててください。